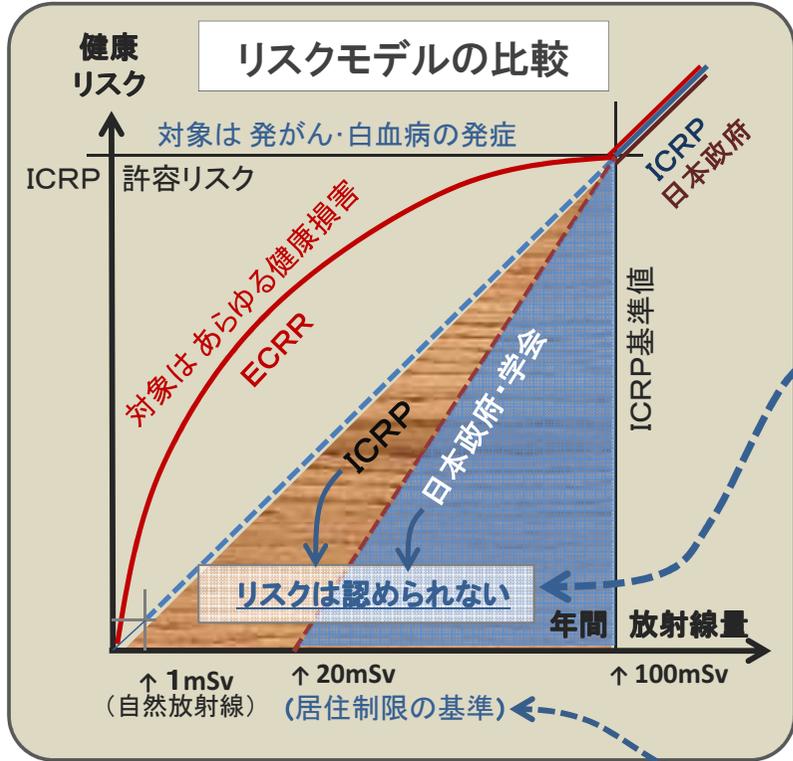


日本政府(低線量&内部被ばくによる健康損害リスクを認めない)に対する市民・識者の反発



日本政府(御用学者)の見解

ICRPに追従

- **閾値(100mSv/年)以下は安全である**
放射線被ばくへの影響は、がんと白血病だけである。
(100mSv確率10万人に5人=20mSv確率10万人に1人)
- 低線量被ばくと健康損傷との因果関係は科学的に証明されていない
(健康不調の要因は放射能汚染以外の方が多い)
- 放射線リスクは、内部被ばくも外部被ばくも同じである
- ヒトは太古から自然放射線に晒されており、生体防御機能が常に働いている
- 低線量放射線は生体を活性化するので、むしろ有益である(ホルミシス効果)

★ 世界中の全ての原発周辺で健康被害が多く発生している。核実験や劣化ウラン弾によるその後の健康被害もでている。

★ 疫学的に証明されている。
★ ICRPは科学的な説明を回避している。

★ 内部被ばくはβ線によるもの
外部被ばくはγ線によるもの
リスク差は1400倍も違う。

★ 生体防御機能は、現代では既にその能力の限界を超えている。

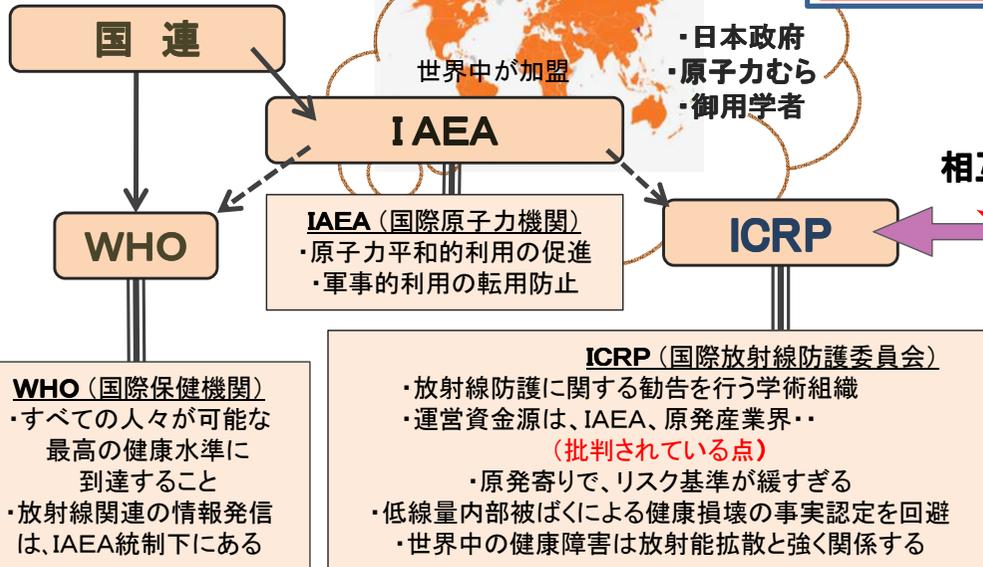
《日本政府に対する主な意見・批判》

- ① 日本政府はICRP (IAEA) に追従
ICRPは、経済優先・原子力優先
ECRRは、人権・健康・環境優先
- ② 内部被ばくや低線量被ばくによる健康障害を認めたくない理由
 - ・原発行政が成り立たなくなるため(安全神話のウソ)
 - ・原発事故責任と莫大な補償問題から逃れるため
 - ・現在進行中の原爆症認定訴訟がますます不利になる
- ③ 政府の姿勢は、人権軽視、健康調査を回避、原発擁護、情報隠蔽、真実の封じ込め(美味しんぼ鼻血騒動等)、報道メディアに圧力、反論研究を妨害(研究費削除、組織圧力・・・)、責任(補償)回避、風評拡大(汚染食料、健康悪化、汚染の話題・・・)を業界・地区で抑圧、空しい再生ビジョン(住民生活・農業畜産水産・商業観光・・・)、

日本政府は世界に恥を晒している?
(人権面や政治理念の面でベラルーシやウクライナより劣っている)

チェルノブイリとフクシマの汚染基準比較

ウクライナ・ベラルーシ・ロシア				日本			
年間 mSv	0.5~1	1~5	5~12	12~	20	20~50	50~
汚染 kBq/m ²	37~	185~	555~	1480~	緑	黄	紫
制限区域	居住可能	避難/居住自由選択	居住禁止	居住/立入の自由選択	立入原則禁止	禁止	禁止
補償			きめ細かく補償あり				
日本汚染指定区域					避難指示解除準備	居住制限	帰還困難
補償			補償なし		補償限定		



相互に反論

ECRR

- ECRR (欧州放射線リスク委員会)
- ・放射性物質の健康損害に関する調査と情報発信
 - ・低線量の電離放射線の健康損害についてICRP見解に反論
(批判されている点)
 - ・公的機関ではない
 - ・恣意的で科学的根拠がない

★ 政治・財界が必ずしも正しいとは限らない。
★ ICRPこそ現実と科学を回避(無視)している。